

## 会議録

会議の名称	第8回 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会
開催日時	平成24年7月26日（木曜日） 9時30分から11時05分まで
開催場所	保谷庁舎 東分庁舎 地下会議室
出席者	委員：伊藤会長、貫井副会長、石黒委員、長谷川委員、本橋英次委員、本橋正明委員、宇田川委員、柴田委員、山田委員、高井委員 事務局：萱野課長、五十嵐課長補佐 村田委員、坂本委員は所用により欠席
議題	1 挨拶 2 事務局紹介 3 委員紹介 4 議事 （1）平成23年度西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業の報告について （2）平成24年度西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施予定及び進捗状況の報告について （3）平成25年度西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業の変更について 5 今後のスケジュールについて 6 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員名簿 資料2 第8回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料 資料3 西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画（改訂版平成24年3月） 資料4 西東京市農業委員会だより（第12号）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録    発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 挨拶</p> <p>○伊藤会長：</p> <p>これより第8回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会を開催する。次第2の事務局紹介にあたり、手塚生活文化スポーツ部長から挨拶をお願いする。</p>	

## 2 事務局紹介

手塚生活文化スポーツ部長：

改めまして、皆様おはようございます。只今、伊藤会長よりご紹介に預かりました手塚でございます。皆様におかれましてはご多忙な中、西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。さて、都市と農業が共生するまちづくり事業でございますが、平成21年度に様々な可能性を描いた「西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」を作成しました。実現可能な事業を選定して、平成22年度には「西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画」を策定し、平成23年度から実施計画に基づいた事業を開始したところです。平成24年度はモデルプラン策定から4年目、事業実施から2年目にあたり、事業としても折り返し地点に着いたという状況でございます。本市にとって平成23年度にスタートした事業を着実に遂行し、平成24年度以降の事業を円滑に進めることは、非常に高度なまちづくりであると認識しております。しかしながら、本推進委員会の委員の皆様には船頭役や舵取りをしていただくことで、大きな成果が得られることと事務局としては確信しております。委員の皆様におかれましては、日頃よりお忙しい中ご苦勞をおかけすることと存じますが、どうぞ西東京市の農業の振興・発展にお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。また、皆様の益々のご健勝を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

萱野産業振興課長：

産業振興課長の萱野でございます。4月1日付の人事異動に伴いまして、事務局に変更がありましたのでご紹介させていただく。前任の担当者の宮坂、稲船の2名が異動となった。私は、平成22年7月より産業振興課長を承っていたが、農業は前任の宮坂が担当していた。宮坂の異動に伴い、私が農業の方も担当させていただくことになった。併せて、後任は五十嵐課長補佐である。

五十嵐課長補佐：

五十嵐でございます。

## 3 委員紹介

○会長：

富岡誠一委員は、本年4月2日付をもって辞任届が提出され、受理された。後任として西東京市農業委員会会長の村田秀夫氏が委員に就任された。また、櫻井勉委員は4月1日付の人事異動に伴い、後任として坂本眞実教育部教育企画課長が委員に就任した。

なお、本日は両委員ともに公務により、本委員会は欠席である。次回の推進委員会において、委嘱状の交付及び就任のご挨拶をいただく。

本日の会議は、西東京市市民参加条例第8条及び西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会設置要綱第7の規定により公開を原則としており、これを認める。傍聴の届出をしている方が1名いらっしゃるのので、傍聴席で傍聴をしていただくということで受理したい。

本日の会議は、西東京市市民参加条例第9条の規定により議事録を作成し公開することとしている。会議録については、発言者の発言内容ごとの要点記録とし、会長、副会長以外の委員については個人名を伏せることとしたい。

委員一同：  
異議なし。

会長：  
異議なしということなので、そのように取り扱う。  
なお、本日は村田委員、坂本委員が欠席であるが、出席委員数が過半数に達している  
ので、本委員会が成立していることを報告する。

#### 4 議事

(1) 平成23年度西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業の報告について

事務局：

議事に入る前に、配布資料の確認を行いたい。本日皆さんのお手元に配布しているのは、資料1：西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員名簿、資料2：第8回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会会議資料、資料3：西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施計画（改訂版 平成24年3月）、資料4：農業委員会だより（第12号）である。

資料2 1 平成23年度西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業の報告（1ページ）について説明。

会長：

質問がなければ、議事（1）については、事務局の報告のとおりとする。

なお、平成23年度事業については、ただ今の報告のとおり、保谷駅北部エリアにおいて事業の実施がスタートしたので、本日をもって保谷駅北部エリアの部会を廃止したいと思う。

委員一同：  
異議なし。

○委員：

保谷駅北部エリアの部会を廃止すると、今後の事業実施にあたり、予算や維持管理等の人的な対応等についてはどのようにしていくのか。

事務局：

予算や管理運営については実施計画に基づく内容で市の方で進めていきたいと考えている。事業内容については、逐次委員会で報告していきたいと思う。

○委員：

先日からスタートしたスタンプラリーの初日に「花摘みの丘」へ出向いたが、イベントのポスター等が掲示されて農園が大変華やかになっていた。農家の方だけでこういうことまでは手が及ばないと思うので、このようなイベントと組み合わせて「花摘みの丘」等の運営を進めていった方が良いのではないかと。事業を盛り上げていくためには、行政からのバックアップが大変重要だと思う。

事務局：

市でも積極的に整備された施設の活用を行い、新たな事業展開も考えていくつもりである。詳細については次の議題の中で紹介したいと思う。

(2) 平成24年度西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施予定及び進捗状況の報告について

会長：

事務局より議事(2)について説明をお願いしたい。

事務局：

資料2 2 平成24年度西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業実施予定及び進捗状況(2~11ページ)について説明。

会長：

「花摘みの丘」の事業内容は、先程委員より提案のあった今後のPRに関する継続的な取り組みをお願いしたいと思う。

「農のアカデミー体験実習農園」には幼児施設・学校関連の6団体が参加しているとのことだが、本日欠席の坂本委員は教育部所属なので、教育関連との協力を得ながら、今後もさらに発展的に活用していければと思う。坂本委員に事務局より、その旨を伝えてもらえればと思う。

「緑のアカデミー」は大変充実した内容のイベントのようだったので、次回11月開催の際には、本推進委員会の委員の皆さんへもぜひとも案内してほしい。

「(仮称)農のアトリエ(蔵の里)」の(仮称)は、部会を通じてということではなく事務局内でのという理解で良いのか。名称も含めて、もし意見がありましたら、いただきたいと思う。また、昨年度の実実施計画の内容に、さらに教育に重点を置いた事業展開として考えているということかと思う。

ソフト事業である「めぐみちゃんメニュー」については、商工会との連携を図りながら進めていくということで、合同部会の開催を予定している。

「めぐみちゃんマーケット」については、事業想定に合わせたマーケットのあり方を部会で検討していくということになる。

○委員：

「緑のアカデミー」に参加したが、すごく楽しい時間が過ごせた。普段なかなか植木職人の技を見る機会がないが、根巻きの実演等を見ることができた。保谷駅南部エリアの「(仮称)農のアトリエ(蔵の里)」に教育機能を持たせるのであれば、そこで緑のアカデミーで見た植木職人の技を子ども達が見る機会があれば良いのではないかと。子ども達に何かを感じてもらえることができればと思う。また、緑のアカデミーでいただいた植木の苗は、どれも良いもので大変満足している。

委員：

「農のアカデミー体験実習農園」は、事務局からの報告を聞いて順調に進んでいるよ

うで大変嬉しく思っている。農園での収穫物の活用はどのようにしているのか。例えば小学校では給食の素材として活用する等の具体的な活用方法があるかと思う。これまでの収穫物の活用方法と、今後事業が順調に進んでいった際には他にどのようなことが考えられるのか、現時点で分かることがあれば教えてほしい。

事務局：

いくつかの例になるが、学校に関しては調理施設があるので、枝豆の収穫後に調理をして該当学年で食べるという活用をしていただいた。学童クラブは児童のおやつとして収穫物を食するという活用を行っている。

委員：

地場産の農産物をこのように調理をして食べるということが、ひいては「郷土愛」に結びつくという話を東京農業大学の教授から聞いたこともあるので、西東京市でも段々とそのように発展していけば良いと思う。

委員：

今年度実施を開始した事業がいくつかあるという話を事務局より説明いただいたが、市民の方一人でも多くに知っていただいて、参加してもらおうということが重要になると思う。先ほど他の委員から話に出た「緑のアカデミー」に参加したので、その際に感じたことをいくつか述べたい。事業としてはスタート段階で、なかなか思ったようにできないこともあった。11月に開催予定の次回の「緑のアカデミー」では、今回学んだことを活かしていきたいと思っている。特に、「緑のアカデミー」のようなイベントでは、いかに市民に参加してもらえるかということが大事なことだと思う。たくさんの方が集まることによって、主催する側のやる気も違ってくるかと思う。例えば参加者を100名募集して、応募が20名の場合と200名の場合では、気持ちの上でモチベーションは変わってくるかと思う。今回の「緑のアカデミー」では、定員を上回る応募があったとこのことで、そのように一人でも多くの市民の方々に参加をしてもらうには、事業のPR方法として様々な媒体を活用して、とにかく一人でも多くの市民に事業を知ってもらうことが大事だと思う。そうすることで事業が活性化していくのではないかな。

委員：

「緑のアカデミー」では、田無緑化組合、JA東京めぐり、協力農家、市が協力をしてイベントを執り行ったことが、参加者としてその場においてよく分かった。大変贅沢なイベントだったように思う。確かにPR方法が既存のやり方では、不特定多数の市民へ情報をばら撒くことになるかと思う。例えば、市内の学校などでチラシ配布等のPRをするとより効果的なのではないか。市報はあまり多くの市民は見ないし、私は本委員会の委員をやっていることもあり、市報に目を通す際もそういう目で市報を読むので、情報がひっかかってくることもあるが、普通の人には情報があまりひっかからないのではないかな。学校等の不特定多数ではない場でのPR活動を行うことが良いのではないかな。「緑のアカデミー」は大変良い体験だと思うので、もっと沢山の市民に体験してもらいたい。

会長：

市報と市のホームページでは、どちらの方が市民は目を通すのか。

事務局：

市の色々な統計を見ると、市報に目を通す市民の方が多いと聞いている。「緑のアカデミー」については、市報と市ホームページでの告知の他に、会場近隣の上向台小学校と向台小学校でチラシを配布して事業のPRをした。そのPR効果もあって、定員以上の応募があったのではないかと思っている。また、先ほど委員から指摘のあった今後はどのような場で周知させていくかという点については、大変重要な課題であると認識している。願わくば、イベントに参加した方々からの口コミで事業が広まっていけば、草の根運動となるかと考えている。

委員：

蛇足になるが、「緑のアカデミー」の開会挨拶の際に、協力農家の方の家の家紋が田無小学校の校章のモチーフとなっている話等をうかがって、目から鱗というか、歴史に厚みのある地域なのだという事を知って、大変勉強になった。「緑のアカデミー」で会場として自宅敷地を提供してくれた岡部氏の話にあった岡部家の家紋が田無小学校の校章のモチーフになっているという話など、地域の歴史の話を知ることができて勉強になった。農や緑の事業に係りのないまっさらな市民が、いきなりイベントに参加することはハードルが高いようにも感じるが、その点のハードルが高く感じないようなPRの仕方を工夫することが大事なのではないか。

会長：

小学校を通じてのチラシの配布というのは、小学校側からは協力をしてもらえたのか。

事務局：

今回の「緑のアカデミー」では、エリアに直近の2つの小学校でチラシを配布した。手順としては、市教育委員会に話をしてから各小学校へ個別に話を持っていった。市の主催事業なので、学校は基本的には協力をしてくれる。しかし、学校も色々忙しいという事情があるので、配布しやすいように、クラス毎や学年毎という細分化する一手間を加えることで、学校側も協力をしてくれている。今回もチラシを置いておくのではなく、全校生徒に配布をし、各家庭に持ち帰ってもらった。

会長：

親子での参加者もいたかと思うが、子どもだけの参加では主催者として不都合はあるか。

委員：

アレンジメントをした植木を持ち帰ることや行き帰りの交通のことを考えると、親子参加の方が望ましいように思う。食育という言葉があるように、「緑育」という新たな言葉もあるようなので、子どものみを対象としたイベントを行うのであれば、子どもに合わせた内容のものを講師がアレンジすることも可能だと思う。また、大人向けでイベントを開催することも可能だと思う。しかし、大人と子どもを分けて行わなくても問題

ないと思う。

会長：

委員から意見のあった植木の持ち帰りの件を考えると、学校で配布するチラシにも「親子で参加してください」というような紹介がある方が良いのかもしれない。

委員：

「緑のアカデミー」に親子で参加している方々を眺めていたら、講師からお互いのアレンジメントについてコメントをもらおうと、親子でそれについて会話が生まれて、大変良いコミュニケーションが取れていたように思う。親子のみならず、参加の組み合わせについては、特別にする必要はないように感じる。

事務局：

今回のイベントは小学生以上の参加、小学生については保護者同伴が参加条件としていた。応募のエントリー自体は1枚のハガキで2名まで申し込めるので、申込者は子どものみでも保護者同伴をお願いしていたので、結果的に親子複数名で参加していただいたことになるかと思う。実際に親子で参加された方々は非常に楽しんでいた様子が見受けられた。

委員：

「緑のアカデミー」だけではなく、いくつかの事業を立ち上げているので、事業毎の単独のPRではなくて、「西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業」全体を市民へPRしてお知らせしてはどうか。ポスター等の掲示もPRになると思う。

会長：

チラシが難しいようであれば、ポスター等の掲示物でも事業のPRに充分つながるかと思う。

委員：

例えば、農家の軒先販売所でポスターやチラシなどを置いてもらってはどうか。そういう販売所を利用する市民は、少なからずとも農や地場産農産物に興味のある意識の高い人が多いかと思うので、事業を知ってもらうにはもってこいなのではないか。

会長：

今年度の他の実施事業についても、参加や協力をされている委員の方々がいらっしゃるかと思うが、何かご意見、ご報告があればお願いしたい。

委員：

感想になってしまうが、先日「花摘みの丘」を訪れた際に親子連れを見かけた。花の購入はしなかったようだが、園内の散策を大変楽しんでた。また、近隣の老人ホームからも問い合わせがあったという話も園主の方から聞いた。収益にはなかなか結びつかないかもしれないが、人の心を和ませる場所として良い意味のある場所なのだと思う。援助や支援があり、継続していければと感じた。

事務局：

「花摘みの丘」については、近隣の保育園から散歩コースの中に組み込みたいという依頼があり、園主の方が了承しているという話もある。市としても、今後もっと積極的にPRをしていきたいと考えている。また、市ホームページ内でも農業関連の内容の充実を図るように進めているので、今後活用していきたいと思う。

副会長：

私は、指導農家として「農のアカデミー体験実習農園」に参加している。農園を訪れる子ども達は大変生き生きとしている。立地としては市の外れになるが、今後工夫をして色々な人に利用してもらえるように展開をしていければと思う。現状では農園から離れたところにある学校等が利用することは難しいので、今後手立てを考えて参加してもらえるようになれば良い。

事務局：

市としても「農のアカデミー体験実習農園」の参加団体は、平成25年度以降広げたいと考えており、先日行われた市内の小中学校の校長会や、今後行われる私立幼稚園の園長会議等、秋以降にいわゆる「営業」をしかけていきたいと思う。

会長：

小学校の農園利用は、どういう時間帯にどのようなスケジュールで農園を訪れているのか。

事務局：

授業のカリキュラムの一環として、主に平日の午前中に参加している。今後は、農園から離れている学校等も含めて、教育員会に移動手段などの予算確保をお願いし、交渉していきたいと考えている。

会長：

移動手段とカリキュラム上の時間について、今後調整を図っていく必要がある。

(3) 平成25年度西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業の変更について

事務局：

資料2 3 平成25年度西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業の変更 (P.12～14) について説明。

委員：

「(仮称) みんなのファームカー」を整備して、誰が活用し運営をするのか。

事務局：

法的なことも勘案すると、車は行政財産という扱いになるので、「(仮称) みんなのファームカー」は西東京市主催又は共催のイベントで活用することを考えている。庁内での利用の際は、事業の主旨に合致していれば使用は可能だと考えている。

委員：

市が管理をするということだと、車の運転は市職員が行うということか。

事務局：

市の責任下、管理下において使用することとし、いずれは運転手を委託していきたいと思う。

委員：

「（仮称）みんなのファームカー」の稼働率や運営スケジュールをしっかりと立てて、事業として実現をしてほしい。

会長：

平成25年度中にどのようなスケジュールを立てて進めていくのか、稼働率はどのくらいなのか等の計画を今後事務局より提示してほしい。

委員：

「（仮称）みんなのファームカー」を市の職員が運転するということだと、イベントを週末に行ったりする際に制約がないのかということが気になる。

また、昨年から、市民活動グループと東大生態調和農学機構で「東大マルシェ」という構想を立てて事業化を進めているという話を聞いた。本事業の計画と東大生態調和農学機構及び市民活動で行う計画とで関連を持つことは考えていないのか。現時点で分かることがあれば教えてほしい。

会長：

今の質問については、先程事務局より東大生態調和農学機構とのやり取りがあったと報告があったが、直売所の設置についてのやり取りだったと思う。本事業として「（仮称）みんなのファームカー」を含めた今後の連携の可能性等、東大生態調和農学機構との話し合いの中でふれていたかも含めて、事務局より説明してほしい。

事務局：

昨日、東大生態調和農学機構の副機構長と常駐されている先生達とで意見交換と報告を行った。その際に、東大生態調和農学機構としては、本事業に係らず「東大マルシェ」という独自のレストランやマーケットを整備する構想があるという話だった。しかし、キャンパス整備計画自体が遅れていること、また整備を行うとしても後期で行う予定だということだ。市としても、ぜひとも東大生態調和農学機構の事業に参画させてもらいたいという意思表示はしており、概ね了解はいただいている。市民団体の方々が取り組んでいる「東大マルシェ」とも、まだ正式なアプローチは行っていないが、本日の推進委員会で皆さんに承認いただき、庁内で検討を進めた後、然るべき時期に話し合いを設けたいと考えている。しかし、東京都の補助事業のスケジュールから考えると、「（仮称）みんなのファームカー」の車の整備については、平成25年度の下半期なるかと思う。連携を行うことになったとしても、時間がかかるかと思う。

会長：

訂正については、12ページ・事業の実施方針1に「季節ごとの特徴を活かした事業を実施する」とあるので、東大生態調和農学機構の事業については残念な結果にはなったが、「（仮称）みんなのファームカー」事業を通じての事業展開については検討が必要かということになる。東大生態調和農学機構及び東大本部との協議も今後必要になってくるかと思う。

副会長：

東大生態調和農学機構のキャンパス整備計画が遅れたこと自体は止むを得ない話だと思う。しかし、まちづくりプランでは、ソフト事業の計画段階で東大生態調和農学機構をコアエリアとして、他の拠点はサテライトエリアと位置付けているので、事業計画の全体の流れが変わってしまうのではないか。「（仮称）みんなのファームカー」自体は、事業として悪くないと思うが、事業計画の全体の流れの中で、説明することはかなり厳しいように思う。そして「（仮称）みんなのファームカー」については、実施計画段階では東大生態調和農学機構のコアの部分には建物があり、常設の販売機能や教育機能を設けてという考え方だったものを、ファームカーという提案になってしまうと実施計画の要素は消されてしまうように思う。単なる移動販売車で、週末のみ、年数回という稼働率では、全体の計画の中での位置付けがぼやけてしまうのではないかと心配である。「（仮称）みんなのファームカー」については、提案段階なので、もっと検討をするという余地が残されてはいる。将来的には、東大生態調和農学機構とソフト事業の連携ができるように残していければと思う。

事務局：

副会長がご指摘のように、モデルプランでは東大生態調和農学機構をコアエリアと位置付け、実施計画では地理的にもキャパシティ的にも東大生態調和農学機構は中心という考え方であった。しかし、各エリアで明確なコンセプトを持った事業を展開することになっているので、東大生態調和農学機構は全てを網羅する集約的な機能という位置付けにしていた。また、キャンパス整備計画の中ではいくつか売却予定地があり、売却先は未定のところがほとんどだが、これがどういう展開になるかが一つのカギになるかと思う。市としては参画できる部分については、参画していきたいと思う。また、「東大マルシェ」については、今後市が連携することについては了解を得ているので、まちづくり事業のコンセプトやエッセンスはそちらに引き継いでいきたいと考えている。

会長：

これまで長い時間をかけてモデルプランと実施計画を作ってきたと思う。直売が農家にとって一番期待が大きいという意見を多くもらった。一方で直売にお客さんがたくさん集まる場合の受け皿になるような、駐車場を持つ施設を作るのは難しいということだったかと思う。そのような事情を考慮して、地理的、キャパシティ的にも東大生態調和農学機構との協力が得られるということは、期待する効果が大きいという話だった。「（仮称）みんなのファームカー」の事業の実施方針の1できちんと位置付けてあり、3の「市内各地の拠点においても」ということを併行して考えておきながら、東大生態調和農学機構のキャンパスで行うイベントに「（仮称）みんなのファームカー」を設置できるように関係性を築いておく必要がある。本事業の中でも活用方法については、東大

生態調和農学機構と連携が取れるようにしておいてもらいたい。

事務局：

東大生態調和農学機構との連携は最重要課題だと思っている。また、稼働率も上げていきたいと思う。願わくば「(仮称) みんなのファームカー」がランドマークとなり、この車があるところに人が集まってくるというようにしたいと思う。

委員：

先程、車の稼働率について指摘があったが、「(仮称) みんなのファームカー」はただの移動販売車ではなく、現在我々が事業として計画している中のもので使えそうなものを色々と完備していけば良いのではないかと考えている。ただの移動販売車ではないものにして、例えばスピーカーを設置してPRに活用したりすること等が考えられる。いろいろと利用できるようにしていけば稼働率は上がっていくのではないかと考えている。

事務局：

ただ今の委員からの意見のように、「(仮称) みんなのファームカー」はただ農産物売ることを目的とするのではなく、モニターやスピーカー等の音声機能を持たせ、実施したイベントの様態を映像で流しながら紹介したり、今年の市内の作物のでき具合を映像で紹介したりなどを考えている。また、イメージソング等を作れば、市民の皆さんによりファームカーについて認知してもらえるのではないかと考えている。ただ単に車を作り、動かすのではなく、違う意味の相乗効果を本事業では作っていききたいと思う。

会長：

事業計画の変更について異議がなければ、事務局の提案のように変更したいと思う。

委員一同：

異議なし。

## 5 今後のスケジュールについて

○事務局：

今後のスケジュールについては、先ほど説明したように推進委員会はあと2回開催し、「めぐみちゃんメニュー」「めぐみちゃんマーケット」に係る部会については、資料上で示している時期が大まかな開催時期として予定している。その他の部会については、事業の進捗状況に合わせて開催の有無を決めていきたいと思う。また、本年度の都市農業フォーラムは2月上旬に開催したい。また、各事業のイベント等については、委員の皆さんへ周知していく。皆さんの積極的な参加をいただければと思う。

## 6 その他

○会長：

以上を持って、第8回西東京市都市と農業が共生するまちづくり推進委員会を終わる。